

交流 広がる教育支援

この目的・これまでの成果

※の4Rの輪を広げる

国境を越えた子育て応援

—ス・リユース・リサイクル

グリーンコープがファイバーリサイクルセンターを開設して5年。これまでに寄せられた衣類は、延べ約2万5千人の方から約250トンに上ります(2015年7月末日現在)。ファイバーリサイクルの3つの目的のための取り組みは、それぞれ豊かに広がってきました。事業の広がり、と現状についてお伝えします。

また、7月末、組合員代表がパキスタンを訪れ、アル・カイルアカデミーと交流をしました。現地の状況などについて報告します。

組合員によるパキスタン視察交流

これまで、ムザヒル校長が来日しての交流が続いていましたが、今年度から5カ年計画で、組合員が定期的にパキスタンを訪問し交流することになりました。

現地の子どもたちの現状を身近に感じて理解を深めるとともに、届ける衣類がどのように活かされているかを実感すること、また、現地との関係性をより強く結び、国内でのファイバーリサイクルをさらに広げていくことが目的です。

パキスタンの子どもたちの教育支援

ファイバーリサイクルセンターに届いた衣類の8割はパキスタンに向けた輸出用です。現地で古着商に売られ、利益はカラチ市にある無料の学校アル・カイルアカデミーの運営資金などに使われます。

これまで9回計188トンの衣類を博多港からパキスタンへ向け送り出しました。現地ではグリーンコープから届いた

生活困窮者の就労支援

生活困窮者が就労し自立するためのステップとして、グリーンコープではファイバーリサイクルセンターの業務をはじめ、青果のリパックや保冷箱の洗浄作業など、様々な種類の就労訓練を準備しています。主に、抱樸館福岡の利用者が訓練を受け就労につなげています。

ファイバーリサイクルセンターでは、衣類の仕分け・梱包、カタログ古紙回収・運搬、会報等の発送、関連施設への食材や衣類の配達などの業務を

これまで、ムザヒル校長が来日しての交流が続いていましたが、今年度から5カ年計画で、組合員が定期的にパキスタンを訪問し交流することになりました。

現地の子どもたちの現状を身近に感じて理解を深めるとともに、届ける衣類がどのように活かされているかを実感すること、また、現地との関係性をより強く結び、国内でのファイバーリサイクルをさらに広げていくことが目的です。

衣類は質が大変良いと評判で、高く買い取られています。

パキスタンへ送り出すためのコンテナ詰め作業

用意しています。全ての業務をグリーンコープの就労支援員が付き添って指導しています。

働くことで生活のリズムを取り戻し、社会貢献につながる仕事をすることで働く意味を実感することができ、数人のグループで働くことで、仲間意識が持て居場所ができ、コミュニケーション力がつくことにもつながります。こうした経験を通して、就労へ向けた意欲を高めていきます。

2010年11月の開設

アル・カイルアカデミーの様子

カラチ本校

約2300人が通う。アル・カイルアカデミーは全国共通テストの成績が大変良く、現在卒業生の6人がカラチ大学に通っている。本校には200人の定員に700人以上の応募があるが、生活の厳しい子どもから受け入れている。無料の給食は希望する200人ほどが食べているが、恥ずかしくて申し出られない

アル・カイルアカデミーについて

パキスタンは貧富の差が激しく、カラチ市民の約7割が1日2ドル以下で生活している。貧困から悪い道への誘惑も多く、その環境を変えるには教育しかない。校長のムハマド・ムザヒルさんが1987年にスラムに住む10人の子どもを教えることからアル・カイルアカ

以来、ファイバーリサイクルセンターを含むグリーンコープの就労訓練を受けた人は99人。そのうち36人が一般企業に雇用され、13人が障がい者の共同作業所に通所しています(2015年9月現在)。

衣類の仕上げ作業

※生活困窮者の自立を支援する施設

カチュラクンディ分校

ゴミ捨て場の中にある

カチュラクンディはカラチ市内の大きなゴミ捨て場。ゴミが燃える有害な煙が一面に立ち込める中、約4千人が暮らしている。人々はゴミの中から有価物を拾い売ることによって収入を得ている

デミィを始めた。

パキスタンでは子どもは労働力とみなされるため、当初は多くの親が子どもを学校に行かせることに反対していたが、教育を受けることで変わっていく子どもたちの様子に、親たちの意識も少しずつ変わっていき、今では入学希望者が定員を大幅に超えるようになった。現在、本校と分校、専門学校など、5つの学校に3000人を超える子どもたちが学んでいる。

衣類のリユース・リサイクル

組合員から届いた衣類は、ファイバーリサイクルセンターで仕分けされた後、国内で販売可能なものは、リサイクルショップ「ゆう*あい」で販売されます。売上げは、衣類の選別作業の経費などファイバーリサイクルセンターの運営費になります。

当初センター内の1店舗だった「ゆう*あい」も、現在ふくおか、さが、くまもと、おおい、かごしまに、計

AKBGの今後の事業について

の世代が着実に増えている。

カラチ本校。低学年は床に座って、高学年は椅子に座って授業を受ける

12店舗にまで広がりました。組合員が手をあけてつくったワーカーズが主な担い手となつて運営しています。衣類の寄付の受け付けも

AKBGと卸業者との価格交渉。1ルピーでも高く買い取ってもらおうと緊迫したやり取りが続き、この日の交渉は折り合わずに終わった

カラチ本校。低学年は床に座って、高学年は椅子に座って授業を受ける

衣類を届けてください!

みなさんから送られた衣類がファイバーリサイクルの取り組みを支えます

共同購入申込書またはGCwebで専用送り状を注文し、ファイバーリサイクルセンターへ送ってください。

申込番号 **9988**

お近くの「ゆう*あい」ショップでも受け付けています。

詳しくは、ホームページで **グリーンコープ ファイバーリサイクル** 検索

お問い合わせ (092)623-0294

深まるパキスタンとの

ファイバーリサイクルの

新しい雇用をつくり出す

グリーンコープ

※リフューズ・リデュ



左から、松尾篤美さん、サルマさん（縫製工房責任者）、清水清子さん（ファイバーリサイクルセンター長）、三原幸子さん、川上由美子さん

組合

7月29日～8月3日、第1回の視察交流に3人の組合員の代表が参加しました。視察した現地の様子と参加者の感想を紹介しします。



カチュラクンディ分校の子どもたち

子どももいる。上の学年になるほど男の子は働きに出ることが多く、生徒数は減っていく。悪いことをする人や不安定な政情に影響を受け、やる気がな

の習得と雇用の創出、さらには学校運営の資金を生み出すことをめざしている。しかし、現在はほとんど仕事がない状況が続いている。



2014年、猛暑と頻発する停電で扇風機も回せず具合が悪くなる子どももいるとの報告を受け、グリーンコープは組合員からのカンパを募り、発電機を贈った。他団体からも発電機（分校に2台）や燃料、メンテナンス費などが寄贈され、大いに役に立っている



2011年に本校敷地内にできた女性の自立のための縫製工房。現在は細々と幼児服を作っている。グリーンコープは継続的に注文する方法を模索している

学校。午前のクラスのみ、に3歳から5年生まで310人が通う。子どもの仕事の多くが子守りなので、学校に通えるように幼児クラスもつくった。教室内には常に大量のハエがいる。寄付された発電機で扇風機が回っているためこれでも少しは改善したが、劣悪な環境のため優秀な先生は来てくれない。主に本校の卒業生が教えている。

学校の運営費を捻出する事業についても、精力的に取り組んでいる。卒業生の働く場としてリキシャ（タクシー）事業を始めるため、8月に2台のリキシャを購入した。また、ゴミのリサイクルを事業化して収益を新しい学校をつくる資金にするため、ゴミの回収を始めた。街頭スピーチで呼びかけてゴミを集め、本、古紙、生ゴミなど、分別してリサイクルする。

7月1日に博多港から送り出されたコンテナが7月25日にカラチ港に着き、通関・検疫を経て8月1日、古着卸業者の倉庫に到着した。荷降ろしはすべて手で行う重労働。1梱包50キロ総重量約20トンの荷を3人の男性が3時間ほどかけ、倉庫に3メートル以上の高さに積み上げた。



博多港を出た衣類が無事に倉庫に到着

パキスタン視察交流に参加した組合員の感想

グリーンコープかごしま生協

副理事長 川上由美子さん

厳しい環境の中にあるキャンパスでしたが、子どもたちが真剣に授業を受けている姿が印象的でした。子どもたちの住む場所や学校など、少しでも生活環境が改善されることを願わずにいられます。

移動の車窓から見える街の様子、人の様子に大きなエネルギーを感じ、漠然とですが私たちはパキスタンの人々から学ぶべきことがあると感じました。いつの日にか、AKBGとの関係が寄付や援助という形ではなくて、民衆交易へと成長していけたらと思います。

グリーンコープ生協ふくおか

中部地域理事長 三原幸子さん

カラチはゴミで溢れていて、ゴミと排気ガスが混じる嫌な臭いが覆っていました。アル・カイールアカデミーの分校はカチュラクンディ（ゴミの場所の意）にあり、聞いてはいたものの、煙が灰色に立ち込めるゴミ山の中にゴミ拾いをされている姿を目にした時思わず「本当に人がいる」と口にしてしまう程、そこは「人がいるに似つかわしくない場所」でした。

私たちの古着が学校を支援していること、寄贈した発電機がものすごく役立つことも実感しました。何かできることをもつとみんな考えていきたいと思いました。

さが リサイクルショップ「ゆう*あい」本庄店

ワーカーズ すまいるすまいる

代表 松尾篤美さん

パキスタンに行き見たものは、言葉にならない現状でした。そこには普通の暮らしがあり、みんな懸命に生活しています。学校では子どもたちの真剣に学ぶ姿に力強いものを感じました。

ムザヒル校長先生が人々から尊敬され、共に子どもたちのことを考えてくださる仲間がたくさんいることを知りました。校長先生の思いや願いはまだまだこれから進められていきます。私たちがファイバーリサイクルを地域に広げていけるように、ここで見てきたことをしっかりと伝えていきたいと思っています。

一般社団法人グリーン・市民電力から

ひろがれ！ 私たちの 発電所

「原発の電気ではなく、自然エネルギーでつくった電気を使いたい」という願いをかなえるために、グリーンコープ・グリーン電力出資金に協力しましょう

グリーンコープ・グリーン電力出資金
8,090人 855,944,000円 (2015年8月29日現在)

2015年7月の売電量

<p>神在太陽光発電所売電量 115,510kWh 定格出力1,057kW(280世帯相当)</p>	<p>広島物流センター 太陽光発電所売電量 5,732kWh 定格出力47kW(13世帯相当)</p>
<p>若宮物流センター 太陽光発電所売電量 5,751kWh 定格出力47kW(13世帯相当)</p>	<p>グリーンコープやまぐち生協 西部地域本部太陽光発電所売電量 5,068kWh 定格出力54kW(15世帯相当)</p>

お詫びと訂正
9月号の大分県の太陽光発電所についての記載は、特定の地域ではなく大分県内で検討をすすめているものでした。お詫びして訂正いたします。

※アル・カイールアカデミーの運営資金をつくるため、ムザヒル校長が立ち上げた事業グループ

第9回の送り出し
コンテナの着荷を確認